



なきごえ



1989

4

大阪市
天王寺動物園協会

与名正三



鹿児島から南へ300キロ、「大島紬とサトウキビの島」奄美大島。私は昭和26年に、この島で生まれました。動物分布上東洋区にあり、気候は亜熱帯、一年を通じて温暖で雨が多く、

その為、日本本土では見ることのできない珍しい動物達が生息する島です。哺乳類では、「生きた化石」ともいわれ本土のウサギに比べ、耳および後足が短く、真黒で夜行性のウサギ、アマミノクロウサギをはじめ鳥類では、鹿児島県の県鳥に指定され徳之島と奄美大島にだけしか生息しないといわれているルリカケス、コマドリに似ている為、学名を間違えて付けられてしまったアカヒゲ、キツツキの仲間のオーストンオオアカゲラ、そしてヤマシギの仲間アマミヤマシギ等、又、爬虫類では、猛毒を持ち島の人々に恐れられているハブ等、数えきれないほど、貴重な生き物達が生息しています。このような島で育った私の中学校の頃(昭和40年頃)の遊びはといえば、現在のように野球やテニス、サッカー等のスポーツがまだ盛んではなく、なにぶん離島のため貧しい家の子供達の方が多かったので、遊びの道具を買ってもらえず、自然の中で自然の中にある物を道具として遊ぶ時代でした。そのような遊びの中で、当時最も人気のあった遊びが「メジロ獲り」でした。私の仲間だけでなく、高校生や大人達も盛んにやっていました。簡単にいえばメジロやウグイス等の野鳥を捕獲する事なのですが、それぞれ工夫をして道具や罠を作り、それを使って野鳥がかかるのを待つというのは、とてもワクワクして楽しいものでした。その上、鳴き声の美しい野鳥(メジロ、ウ

グイス、アカヒゲ等)は小鳥店に持っていけば、オスに限って買い上げてくれ、小遣い稼ぎにもなりました。どのようにして捕獲するかといえば、まず捕獲したい鳥と同じ種類の罠の鳥の入った鳥籠を、見はらしの良い場所の木の枝に掛け、罠の鳥の囁きによって、そのテリトリー内の鳥を呼びよせます。そして、籠の上や横に取もちを塗った枝を掛け、それに鳥が掛るのを20メートルほど離れた所から見てるといった方法や、「おとし籠」といって、罠の籠の上に鳥が入ると蓋の閉る籠を取り付けて、掛るのを待つといった方法等でした。どちらの方法も捕えた後が大変で、籠に入れ飼い鳥として育てる為にはまず、籠に慣らさなければなりません。捕えた野鳥は、籠に入ると籠の中で暴れ、籠のすき間に嘴をぶつけ、餌をとらずに死んでしまいます。その為、捕えた後籠に入ると、その籠を風呂敷でおおい、真暗にしてしまいます。そして落ち着いたら餌を与え、又、風呂敷でおおいます。この事を繰り返して徐々に籠に慣らしたり、餌もミカンや柿等植物質の餌を最初に与え、慣れてきた頃摺餌に切りかえる等の工夫して、籠に慣らしていました。しかしどちらの方法も犠牲になる鳥は多く、3羽に1羽ぐらいは翌朝には死んでいるような状態でした。このようにして育てた野鳥達を、お互いに鳴き声を競い合わせたり、容姿を比較し合っていて楽しんでいました。

動物と私の関係、それは子供の頃の遊びの道具であり、ベットでした。しかし何十羽という犠牲になった鳥達を通して得た生命の尊さ、又鳥達に触れることによって感じた生命のぬくもり、それは、現在でも忘れることはありません。あれから25年たった現在、自然が失われつつある日本で、野鳥や野生の生き物達が多くの人々達に保護され(自然と共に)、私達の世代だけでなく、後世永久に自然の中でその姿を見る事ができるよう願ひ、私の残りの人生を自然保護の為に役立ててゆきたいと思ひます。子供の頃、犯した野鳥大量殺戮の罪を償う為にも。

(フォトグラファー)

なきごえ4月号もくじ

動物と私 2
“ブラックバックのベビーラッシュ” 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
クマを飼育して 6・7
中国の動物園を旅して 8・9
獣医室から④ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

オウギアイサ
Mergus albellus カモ目、カモ科
北アメリカ中部に分布。湖や沼、河川で生息し、頭部にはかんむり羽があり、オスは白羽、メスは黄かっ色の羽が扇のように開きとても美しい鳥です。(撮影：野口 秀高)



“ブラックバックのベビーラッシュ”

今年1月29日、2月1日、2月4日にオス2頭とメス1頭が誕生しました。この相次いだ誕生に、カモシカ園も一層にぎやかになりました。

さてこのブラックバックの赤ちゃんは一体どこの子かな?

(撮影：山下 賢二)

動物園グラフ

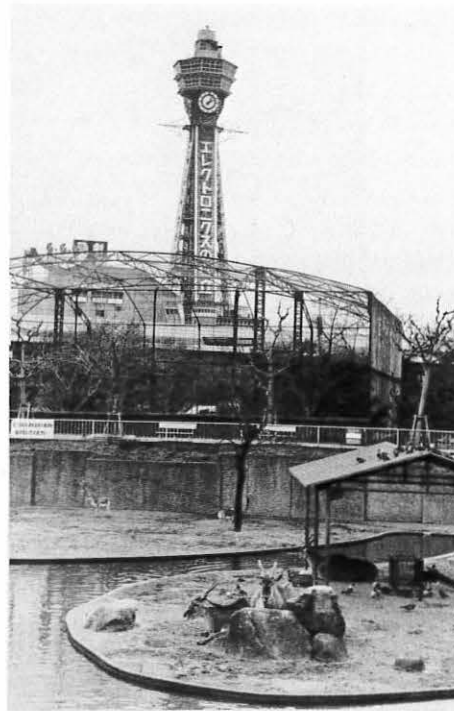
なきごえ25(4),1989

“動物園で楽しい一日を”

春のポカポカ陽気の日は何といっても動物園が一番です。動物園での一日を有意義に過ごして頂くために、ちょっとした見どころを紹介しましょう。
(撮影：早川 篤)



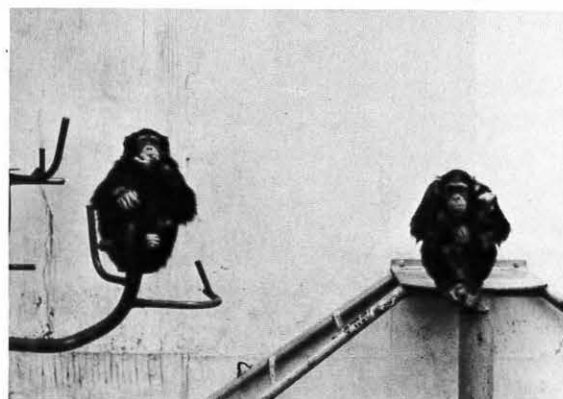
ガラス張りのヒョウ舎とヤマネコ舎はすぐ目の前で動物達が見られます。



カモシカ園からは大阪のシンボル“通天閣”が



サボも今年で3歳になります。



チンパンジーのリッキー(右)とミナミも大きくなりました。

1・2月の動物園日記

- 1/26. 近畿地区動物園獣医師研究会が開催されました。
- 1/27. クロサイのオス“サイ太”が左胸の皮膚に裂創をうけたので、治療を行ないました。
- 1/28. カワセミを1羽保護しました。
- 1/29. ブラックバックのオスが1頭生まれました。
- 1/30. スプリングボックのメスが感冒にかかり元気がないため、治療を開始しました。
- 1/31. コアラ舎のためのディスプレイ会議を行いました。
- 2/1. ブラックバックのメスの子供が生まれました。体重は4kgありました。

- フクロウ、ゴイサギを各1羽保護しました。
- 2/1. 1歳2ヵ月のホッキョクグマの子“こゆき”の捕獲と搬出のために、検討会を行いました。
- 2/3. カバが発情しました。
- 2/4. ブラックバックのオスの子が生まれました。ハワイガンが1卵目の卵を生み、抱きはじめました。
- 2/5. コウノトリ舎に巣の材料として、柳の枝を入れました。コアラキャンペーン会議を開催しました。
- 2/6. カイセン症で隔離治療をしていたホンダギツネ2頭を退院させ、展示を再開しました。
- 2/7. クロエリハクチョウのメス1羽が、豊橋市

なきごえ25(4),1989



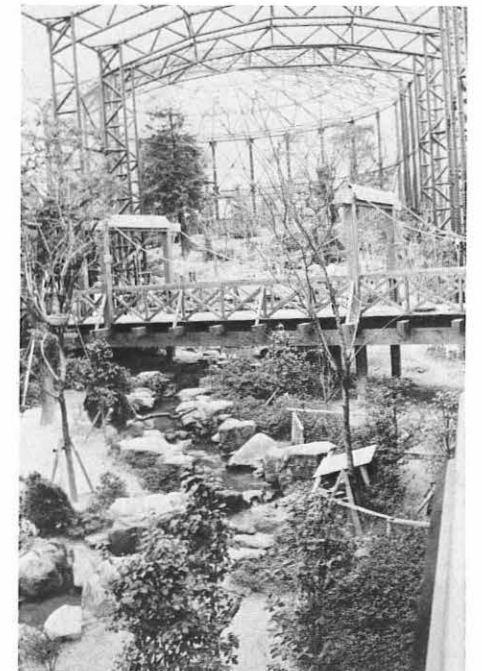
コアラの食べるユーカリ



今夏オープンのコアラ舎建設も着々と進んでいます。(2月中旬撮影)



季節の花々を楽しんで下さい。



鳥たちが自由に飛ぶ姿が見られます。

- 動物園のご厚意により入園しました。
- 2/8. 隔離収容舎の消毒を実施しました。
- 2/11. ワシミミズクが産卵し抱卵に入っています。
- 2/13. ハワイガンが4卵目を産卵し、順調に抱卵をつづけています。
- 2/14. アライグマを1頭、警察より保護預りました。オジロワシの1羽が右足をびっこをひくので、治療しました。展示中のアライグマ、大助とムッチャンが交尾しました。
- 2/15. バードケージ“鳥の楽園”のシュバシコウの巣材上げを行いました。
- 2/16. 昨年生まれのカリフォルニアアシカの体重

- 測定を実施しました。
- 昨年6月4日生まれの子を両親から分け、今春の繁殖にむけて準備をととのえました。
- 2/19. オオヤマネコの交尾を確認しました。
- 2/20. サバンナモンキーが交尾しました。ホッキョクグマの“こゆき”を池田動物園に向けて搬出しました。
- 2/23. ゴリラのメス“ラリ”が口内炎のため食欲不振となったので、投薬のほかおにぎり等を与えました。
- 2/25. バードケージ“鳥の楽園”では、橋の下でアカハジロの抱卵が始まりました。

クマを飼育して

§ はじめに

現在、動物園には、4種8頭のクマが飼育されています。その中で私の担当はマレーグマ、ツキノワグマ、ヒグマの計6頭です。今回は、私のクマ飼育日誌から幾つかひろいあげてご紹介していきたいと思ひます。

§ マレーグマ

マレーグマは東南アジアの森林地帯に住むクマで、クマの仲間の中ではいちばん小型で体重は50~70kgぐらい、体毛は短かく、爪は大きく曲っています。体重が他のクマより軽い分木のぼりが上手で、運動場には高さ3mぐらいの立ち木が入っていますが、天気の良い日にはオスの方が上手に爪をつかい体をゆきぶりながら登り木のまたに腰をおろして、日なたぼっこをしています。メスの方は、あまり木のぼ



りは好きでないみたいでもっぱらプールの中に入り水あそびをしています。夜行性動物なので、昼間はよくほら穴の中で、昼寝をしています。たまに二本足で立ちあがり、手まねきをしたり、あおむけに寝ころごったりして愛嬌をふりまいています。

§ ツキノワグマ

このクマは日本のクマで、本州、四国、九州(絶滅したとされている)に生存しています。体重は50~100kg以上あり、胸に三日月の模様があるのが特徴です。このクマも小型のクマの仲間、木のぼりはうまく、よく立ち木の上のぼっています。身体自



体たいて大きくないのですが、なかなかの力もちで、運動場に重さ100kgぐらいの木がおいてあるのですが、前足の爪をちょっとひっかけただけで、楽々と動かしてしまいます。今いる2頭は、兄妹関係にありますが、性格はオスの方がおとなしく、メスは気が強くおちつきがないといった感じです。

§ ヒグマ

ヒグマの場合はその種類も多く分布も日本、北アメリカ、アラスカ、ソ連、ヨーロッパと、その生息地域も広く、寒冷地にすんでいます。当園で飼育しているのはエゾヒグマです。この種はクマの中でも大型の仲間に入り、動作などは一見鈍重に見えますが、なかなか敏捷で時速50kmぐらいで走ることができます。動物園の運動場はせまいので、そんなに速く走るのは見られませんが、何かにびっくりした時は、すばやくほら穴に身をかくす姿には、おどろか



されます。そして今いるクマは、大変水あそびが好きで2~3月の寒い時期でもプールの中に入っています。

§ エサ

クマは肉食類の仲間ですが、肉ばかりたべているのではなく、果実、青草など植物や小型動物、昆虫などを食べる雑食性です。動物園では、パン、クマ用ソーセージ、リング、イモなどを各分量に分けて与えています。エサを食べる時、一頭一頭の個性がでていて、見ていてあきないものです。マレーグマのメスの食事は、お行儀よく食べます。部屋のすみっこにエサを持っていき、イヌがチンチンをする格好ですわり、両手でうまくエサをはさんで食べています。ヒグマのメスはかなりの歳で、動物園の中で長寿動物の仲間に入り、歯のほうもかなり弱ってきているのか、水槽の中にエサを入れ、ふやかしてたべています。ツキノワグマのメスは、時間をかけゆっくりたべるのですが、絶対とっていいほど人に食事中をみられるのを嫌がります。ちょっと中をのぞくとすぐ威嚇してきます(少し神経質ぎみかな)。ヒグマのオスは、だれもエサをとらないのにシャッターを開けると、一目散に寝室に入りわきめもふらず、エサに食いつきあつという間にたいらげてしまいます。

§ 交尾と出産

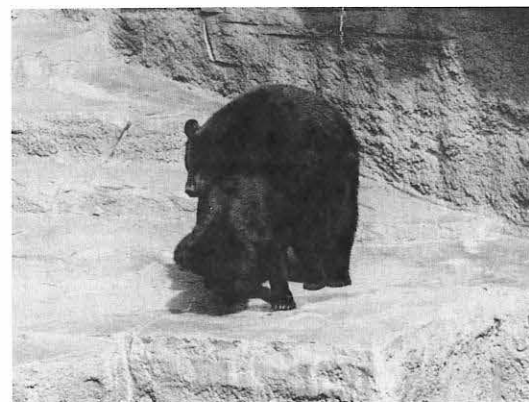
マレーグマは決った発情期というのではなく一年中交尾をします。私が観察したところ4ヶ月周期、年3回発情します。今いるメスは当園ではじめてできた仔で、その後、母親は死亡して父親と2頭で飼育しています。父と娘関係なのですが、この10年間交尾は確認していましたが妊娠兆候はみられず、出産はあきらめていました。しかし、1987年3月12日に待望の仔を出産しました。このときは、あまり確認しておりませんので、出産準備をしていません

でした。クマの仔は大変小さいのでメスの腹囲の膨大などはなく外見での判断は極めて困難です。しかし、妊娠末期になるとだいたいエサを食べる量が少なくなりますので、それで判断するのですが、今回は出産前日までエサ食いは良好でした。出産前夜、



夕方、いつものように寝室内に収容しエサを与えるべくたべていたのです。作業も終え、動物舎からはなれる前に最後の確認に回っていると、マレーグマのメスの部屋の中から変な音が聞えてきました。そして中をのぞくと、壁をひっかいたり、前足の爪と爪をたたきあわせたり、床をひっかいたりしていました。初めは何をしているのか意味がわからなかったのです。もしかしたらと思いましたが何の準備もしていなくてすぐには産まれないだろうと思ひ、その日は、そのままにしておきました。3月12日朝、いつものようにクマ舎に行き、動物に声をかけると、マレーグマのメスだけ反応がなく、部屋のすみで丸くうずくまったままでした。そして、とつぜん威嚇して、体を動かした時仔のなき声を確認し、出産したのを知りました。すぐにワラを入れてやると、口でくわえ仔のところにもってゆき、かんでやわらかくし丸いかたちに巣を作り、仔をかかえこむ姿でうずくまりました。その日は、なるべく母親を興奮させないように動物舎にも近よらないようにしました。夕方、好物のリングとイモを与え、そして仔のなき声を確認してから動物舎をはなれました。

3月13日、朝、私は生きてくれという願いでクマ舎に行き、声を確認しようとしたが中からは何の音もきこえず、そつと中をのぞくと親は巣の中で丸くなったままで、私は他の作業にかり、その後、



室内を観察すると、バリバリというへんな音が聞こえ、急いで中をみると親が仔を食べていました。私はあわてて親を外に出しましたがすでに仔はつめたくなって、死んでいました。母親は死んだ仔をかくそうとして、食べようとしたと思ひます。

この母親の場合は初産でもあり失敗しましたが、今後も出産が期待できますので、出産予定日の予測をしっかりと見きわめ、早いうちから巣ワラを入れるなど準備をしたいと思ひています。

ニホングマの発情は、7月~8月中旬の年1回で、交尾は発情期間中の1週間ぐらいです。今のニホングマが当園にきたのは、生まれて1歳にもならない子供でした。1987年7月に初めて交尾しました。交尾行動は昨年からみられていたのですが、交尾は確認していませんでした。前にも書きましたようにクマの妊娠は外見では、判断しにくく、採食量や行動で判断するしかありません。10月の下旬ごろから急に外に出るのをいやがり、外にだすのに時間がかかるようになりました。11月になると極端に動作はぶくなり、部室のすみや階段の下の暗い所で丸く寝るようになり、この状態が出産までつづきました。この時期になって、ときどき餌を少量ずつ残しだしてきました。12月になると、運動場に出しても1日中、うずくまったままの状態です。中旬ぐらいから、エサを毎日残しだすようになり、特にパンは床にごすりつける様に残し、その上で寝ていました。そしてこの時から、エサのあたえる分量を少しずつおとしていきました。

1988年に入り腹の中に赤ちゃんがいるのはまちがいないと判断し、1月24日寝室内にワラを入れてやりました。最初は警戒してワラをさけエサを食べる階段の下で寝ていました。しかし、翌日からはワラに自分の体臭がついて安心したのか、ワラを階段にもっていきその上で寝ていました。

1月30日、朝、私がいつものように声をかけ、外にだそうすると、頭を少し動かしただけでワラの上ですぐ丸くなりしばらくそつとしておく自分から運動場に出ていきました。その後、室内に入ると、ワラの上や壁に血がついていて、出産していると思ひ仔を探しましたが姿はなく、食べてしまったと思ひ込んでしまったものです。マレーグマの時の経験を生かして、もっと慎重に行動すればよかったと反省しましたが、その日のうちにワラを取りあげました。しかし、2月3日、朝、1頭の赤ちゃんを出産していたのですが、すでに仔は死亡しており、大変残念なことをしてしまったと思ひています。妊娠期間は200日でした。出産後、母親の食欲も1週間ぐらいで、もとにもどりしました。

§ おわりに

今回は、私が5年間つけてきたクマ日誌から一部分をまとめて紹介しました。記録をつけることにより、動物の1日の行動、採食量、そして1年間のサイクルが明らかになり、後任飼育課員のためにも少しは役立つと思ひます。今後もこの記録を参考にして、飼育していきたいと思ひます。

(飼育課:土谷 正道)

中国の動物園を旅して

なきごえ25(4),1989

大中国、People's Republic of China、人口は10億7233万人、日本のざっと8.8倍。面積は959.7万km²、日本のざっと25.4倍になります。数字のうえではただただ広く、大きな国で度肝を抜かれますが、地方では人口密度も低く、ゆったりと暮らしています。しかし、都会では人がひしめきあい、自転車も数多く、雑踏と騒音と活気が満ちあふれています。

昨年(1988年)10月に私達動物交流視察団一行(藤野、中川、浅田)は、大阪市、上海市友好交流事業の第7次動物交流として中国上海市を訪問しました。そして中国滞在9日間に上海をはじめ広州、北京と友好と親善の輪を広めました。

今まで天王寺動物園の動物交流視察団では上海を中心に北京のほか、南京もしくは杭州を訪問する程度でしたが、今回は日程のゆるす限り余り訪れていない目新しい動物園で中国有数の代表的な施設を訪問してみようと広州動物園を選び上海動物園側に打診をしていました。幸いにも上海動物園がこの希望を受け入れていただいたので、今回、中国三大動物園である上海、広州、北京の各園を訪問することができました。

あえてこの3ヶ所を選んだことは代表的動物園という以外に、気候風土、植生、民俗風習、生活、家屋、料理、人の気質等の違いに興味を引かれたからです。確かにその違いは明瞭で、経験したその1つをご説明しましょう。

§ “上海にて”

10月11日11:15AMに大阪空港を飛び発ったJAL793便は日本時間13:30PMに上海虹橋空港に着陸しました。しかしながら到着ロビーには誰も出迎えて来ておりません。何度も詳細な手紙を送ってあったのですが、右往左往しているともなく上海動物園の顧文儀園長が見えられました。顧園長は私達を出迎えるため793便の到着予定時間よりも前に来ておられたのですが、こちらは“選いじゃないですか”という言葉の出るのをおさえつつ、はてな?この食い違いはどこから生じたかと考えを巡らしますと、当方が到着時刻を日本時間で上海側に連絡しており、時差があることも気づかず一方的に鶴呑みしていたのに比べ、上海動物園の方はちゃんと心得て中国側の時刻表で確認し出迎えていただいていたのです。



上海動物園での交換動物贈呈式

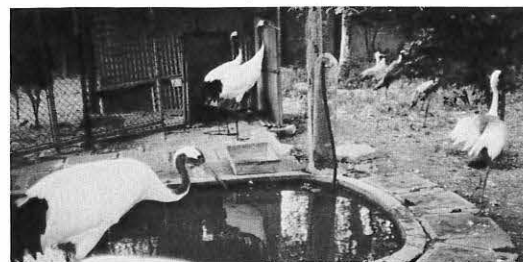
到着後、すぐに宿舎である虹橋迎賓館(その昔、鄧小平氏が別荘として使ったことがある)で日程調整を行い、10月11日~14日まで上海に滞在し、メインの交換動物の贈呈式をはじめ上海動物園、上海植

物園、上海雑技団(芸をするパンダ“偉々”で有名)、中国庭園大観園(小説“紅樓夢”を題材)の見学を組んでいただきました。そして14日夜から16日夜までは広州滞在、16日夜から19日朝までは北京滞在与超過密スケジュールで日本人も顔負けの強行軍の幕開けとなりました。

さて、上海市は戦前の租界時代の建物が残っている地域が中心部であり非常に賑いを見せていますが、近年はそれより西へ3~4km離れたところにご数年外資系(ヒルトン、日航等)の高層ホテルが建並び、市民の高層住宅もそれにあわせ虹橋路に沿って西へ開けるようになってきました。上海動物園は市内中心部から西へ10km離れた虹橋路沿いにありますが1955年に西郊公園として開放された当時は20haの広さしかありませんでした。西郊公園は租界時代のゴルフ場を転用したもので、そのため園内は起伏が少なく、樹齢の古い高木と平坦な芝生と大きな池で構成されています。1981年に名称を上海動物園とあらため、面積も70haとなっています。

展示種数は約350種ですが両生、爬虫類、魚類のコレクションを今後は充実させたいということです。年間有料入場者は380万~400万人で、気候の良い5月の日曜日には1日7万人の人が詰めかけるそうです。しかしながら上海でも市民の生活が向上し、レジャー産業が振興してきたことにより入園者数が下降気味であるということです。

動物舎はほとんどがレンガ造り、面格子、金網張りという古いタイプのもので目新しいものは見受けられませんが、1987年に完成した小獣園は11のタイプの動物舎からなっており1つ1つに変化を持たせた動物舎で、これは新しい展示法と思われました。北京動物園でもそうですが、中国の動物園では動物舎は屋内外を自由に見せるということでオープンになっています。そのため動物を屋外に出してシャッターを閉めるということはせず、動物の自由らせていますので、時には動物が何処にいるかわ



上海動物園繁殖センターで繁殖したタンチョウ、マナヅル、ナベヅルなど

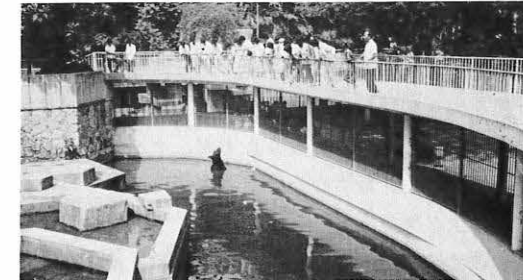
からないことがあります。上海動物園は繁殖成績も優秀であり海外の動物園、動物商とも交換事業が盛んで、動物園の北2kmほどの所に繁殖センターを設け、ニホンコウノトリ、キンシコウ、フランソワルトン、ターキン、レッサーパンダ、タンチョウ、マナヅルなどワシントン条約に該当する希少な動物を数多く繁殖させています。

§ “広州にて”

14日の午後3時に上海の方々に見送りをうけお別

なきごえ25(4),1989

れた私達は離陸予定時間に遅れること4時間の午後7時になってようやく広州に向け中国民航B767型機が飛び立ちました。2時間半の飛行で広州に着いたのが午後9時半すぎで手荷物を受けとり、ホテルに着いたのが午後11時、日程調整を終えた頃には時計は午前0時を回っておりました。



広州動物園のクマ舎にみる上下2層式の観覧路

さて、広州動物園は上海に遅れること3年の1958年に建設され、創立30年を迎えております。元墓地の丘陵地に建設された広州動物園は面積43.3ha、職員500名と上海、北京の動物園に比べいささか小さいですが、緑豊かな起伏の多い土地に建設された関係で、視界に変化があり、又香港に近いこともあって近代的なあかぬけした動物舎が建っています。広州動物園の動物舎は気象条件(雨期、スコール)にあわせ雨天観覧路を随所に設けたものが数多くみられます。又、直射日光による寝室の高温化を防ぐためコンクリート屋根に厚い芝生を繁らせるなどの工夫がみられます。園内にはユスラヤシ、トックリヤシ、



緑豊かな広州動物園のカバ舎

ユツカ、ユーカリ、クワズイモ、ブーゲンビリアなど亜熱帯の樹木草花がみられ、上海とは一風変わった趣きをもっています。特に目をひいた動物舎ではトラ、ライオン舎(植栽が素晴らしい)、クマ舎(上下2層式の観覧路)、ゾウ舎(モートをはさみ2種を比較展示)などがあげられます。

§ “北京にて”

広州を16日の夜8時30分(これも出発1時間半遅れ)に離陸した中国民航B767型機が北京に着陸したのは午後11時20分で、この日の最終便でした。空港から市内への広い整備された道路を小1時間深夜ドライブして宿舎に着いたのが午前1時。今回の中国出張ではスケジュールがハードで連日このような調子でよく体に変調しなかったものと感心しています。さて、北京動物園は何かにつけて中国一。創立が1908年(天王寺動物園は1915年)、面積は90ha(内50ha



北京動物園の広大なヒグマ舎

使用)、入園者数は年間1200万人(内有料入場800万人)、1日の最高入場者数35万人、展示種数は494種3200点余り。比較展示の手法をとり入れゾウ、サイ、クマ、大型ネコ、シカなど各大陸のものを数多く収集し展示しています。特に、シカ、カモシカ、大型ネコなどは目を見晴るものがあります。

北京動物園は冬の気候のこともあるのか、動物舎はどれも館という感じで重厚な建物が多いように感じられました。特に大型ネコ舎、ゾウ舎、両生爬虫類舎は広大で見事というほかありません。北京動物園は中国の動物園の要であり、北京動物園が海外から入手したもの、或は繁殖させたものを広く国内の動物園にも配分しています。又、中国動物園協会の事務局と副会長を務め、中国第1級動物の貸出し、譲渡についても大きな力を持っています。

今回、中国3大動物園を視察して感じることは、いずれの園も職員数が多く、仕事はほとんど直営で分業制をとっており整備が行届いております。動物舎の老朽化もいくらか見られますが、技術開発と流通機構の発達に伴ないどんどんと整備されていくものと思われま。教育面については北京動物園を中心に希少動物保護パネル、学名札、説明板、順路標柱などが模範的に整備され、他園のモデルとなっています。



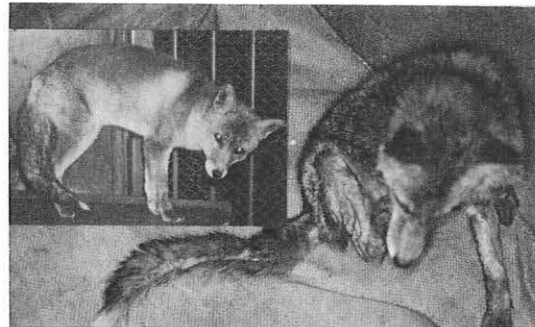
北京動物園の順路標柱

今後の動物交流事業について動物のプレゼントだけでなく、飼育技術、獣医診療面の情報交換、研究会の開催、希少動物のブリーディングローンなどを中心に推し進めるべきであると感じました。

(飼育係長:中川 哲男)

— 便利な注射用駆虫薬 —

幼稚園や小学校で、セロファンテープのような粘着物を肛門にはって行く蟯虫検査。動物園でもチンパンジーで行っていますが、この検査結果が陽性(蟯虫をもっている)という判定ができれば、もちろん駆虫(虫を落とす)しなければなりません。私の小学生の頃は、丸いチョコレート玉のような駆虫薬をなめさせられたことを覚えています。それは外側だけがチョコレートで、中身が黄色をしており甘みはありましたが、何か変な味がするものだったことを覚えています。食べ終わったあと目の前が黄色っぽく見え



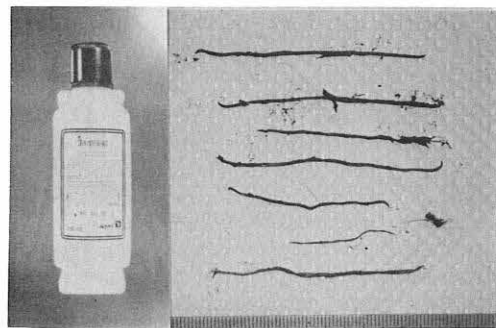
カイセン症で尾など毛がぬげ見すぼらしかったホンドギツネ(右)も、すっかり治りました(左上)。

このように、薬を口から与える方法を、経口投薬法といいます。このやり方が、動物園では、内部寄生虫(胃腸などに寄生する寄生虫)に対してもっともよく使用されるものです。その場合、味覚や嗅覚のすぐれている動物は、日常食べているエサと異っているにおいや味のするものに絶対に口をつけないということがよくおきます。こんなとき、注射薬があれば、すぐ投与できるのにと、以前から何度となく思っていました。条虫にきく注射薬は数年前に発売され、当園でもすでに応用済みです。しかしながら、当園での条虫寄生の症例はほとんどなく、注射薬でほしいものは、回虫、鉤虫、糞線虫などの線虫類や、カイセンなどの外部寄生虫に効果がある薬でした。

数年前から、犬に寄生するフィラリアという虫に効果があるということで、イベルメクチンの経口投与薬が発売されましたが、最近、その注射薬も発売されるようになりました。早速、当園もこの薬を手

用しはじめました。動物園動物に対してのこの薬を応用したという報告書は、外国での事例が知られていますが、日本では全く見当りません。この薬自体が、家畜(牛、豚)のために開発されたものであり、野生動物に対する応用例というのは、少なくともあたり前なのかも知れません。動物園の動物では、手さぐりな状態での使用となりますが、アライグマやギンギツネなど、数少ない応用例の結果をみても大変安全な薬であることが分かります。

当園では、今までにホンドギツネのカイセン症、タヌキの糞線虫寄生、ライオンやピューマの大小回虫寄生、ゴールデンキャットの猫回虫寄生など10種14点で良好な効果を得ました。特に、タヌキやギツネなどはたま網などで捕えて、駆虫薬を注射できますが、ライオンやピューマなどのような猛獣になってきますと、そのような方法は役に立ちません。そこで、動物と離れた場所にて、注射できる方法はないかということになります。このような場合、吹矢式注射法は大変有効で、3m位離れていても、ねらったところにうまく注射針を刺せ、薬剤を注入することができます。ですから麻酔をする必要もなく、安全に注射が行なえるというわけです。



注射用駆虫薬(左)と注射後、ライオンから排出された回虫。

動物園という限られた人工的な環境で、動物たちをいつまでも健康に保つためにも、人や家畜を対象にどんどん作出されてくる新薬をよく知るとともにそれが動物園の動物に適用可能かを見極め、可能ならばすぐ応用していく、この姿勢をいつも忘れないものです。

(飼育課獣医師・森本 委利)

動物園ニュース

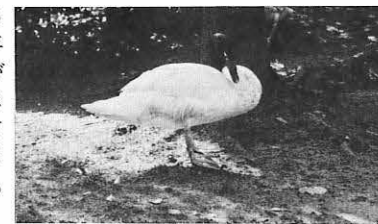
§ ヒメネズミ来園

昭和60年にオープンした夜行性動物舎に展示するため昭和59年からヒメネズミを飼育してきましたが、寿命の短い動物ですので、最近になって次々死亡してしまいました。そこで、新たなヒメネズミを入手したいと捜していたところ、2月3日に大阪市立大学の医学部よりオス、メス各2頭を寄付していただきました。

ヒメネズミは体長10cm弱の小さなネズミですので夜行性動物舎でもあまり目立たない動物ですが、日本特産の動物であり、ぜひ繁殖に成功させたいものです。

§ クロエリハクチョウのプレゼント

2月7日、豊橋市動物園のご好意でクロエリハクチョウのメスが来園しました。当園では過去に繁殖の実績もあるのですが昨年3月にメスが死亡し、オス1羽になっていただけにうれしい贈りものです。



さっそく、豊橋市動物園より来園したクロエリハクチョウオスと同居させましたが、仲良く泳ぐ姿が見られています。来園したメスは成鳥ですので今年の繁殖も夢ではないかもしれません。

§ シュバシコウの巣材上げ

2月15日にバードケージ「鳥の楽園」でシュバシコウのための巣材上げを行ないました。20個ある巣台の上に巣材となる柳の小枝を職員が次々上げました。昨年は初めての巣材上げでしたが、今年は昨年の巣材も残っていたので作業は30分あまりで終了しました。

昨年は12巣で営巣し、13羽のヒナが孵化し11羽のヒナが成育しました。シュバシコウは昨年より

バードケージの巣材上げ 9羽多い45羽を現在飼育していますので、昨年以上のヒナの成育が期待できそうです。

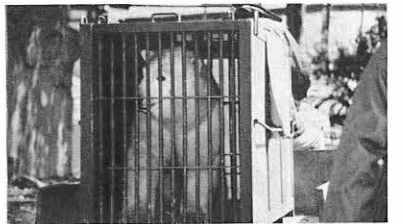
§ ホッキョクグマ“こゆき”のお嫁入り

2月20日に一昨年の11月16日に生まれたホッキョクグマの“こゆき”が動物交換で岡山県の池田動物園へ出園しました。

今年の繁殖のため、そろそろ“こゆき”を母親から離さなければならないと考えていたところ、“こ

ゆき”より1ヵ月若いオスを飼育している池田動物園から申し出があり、今回の交換が実現しました。

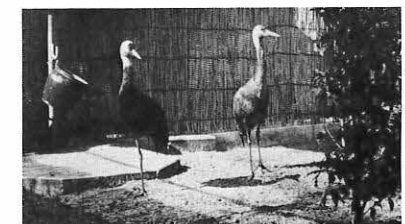
昨年3月11日の一般公開以来、たいへん人気を集めていた“こゆき”ですが、1歳3ヶ月と



大きく成長しました。2月13日から搬出作業のため、“こゆき”の公開を中止することがあるという発表をしたところ、多くの市民の方々から「お嫁入りには早すぎる」という抗議やお祝いのお電話をいただき、あらためて“こゆき”の人気の大きさに驚かされました。5~6年先の赤ちゃん誕生の朗報を期待したいものです。

§ ナベヅル来園

2月20日にナベヅルのオス、メス各1羽がホッキョクグマとの交換で池田動物園から来園しました。



ナベヅルはオス、メス同色で、全身が灰黒色で、首の上部が白く、頭の部分が赤い小型のツルです。ソビエト

湖の東で繁殖し、中国の揚子江下流や日本で繁殖します。世界中のほとんどの個体が鹿児島県の出水市で越冬することが知られています。

日本の動物園では16羽しか飼育されておらず、当園での飼育は昭和54年以来、10年ぶりのことです。たいへん貴重なツルですので、ぜひ繁殖に成功させたいものです。

ナベヅルのペア トのバイカル

動物のお話とスライドの会
4月16日(日) コアラがやってくる
5月21日(日) 日本の動物
6月18日(日) サル島のニホンザル
時間:午後1時~2時
場所:北園レクチャールーム
テレフォンサービス実施中
催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。
電話番号771-9999

* 休園日のお知らせ *
動物園の休園日は毎月第3月曜日(休日の場合は翌日)です。6月までの休園日は下記のとおりです。
4月17日(月)、5月15日(月)、6月19日(月)
開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

現在の飼育動物数

(平成元年2月28日現在)

哺乳類	13目	103種	394点
鳥類	20目	191種	631点
爬虫類	3目	37種	91点
合計	36目	331種	1,116点

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間は？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

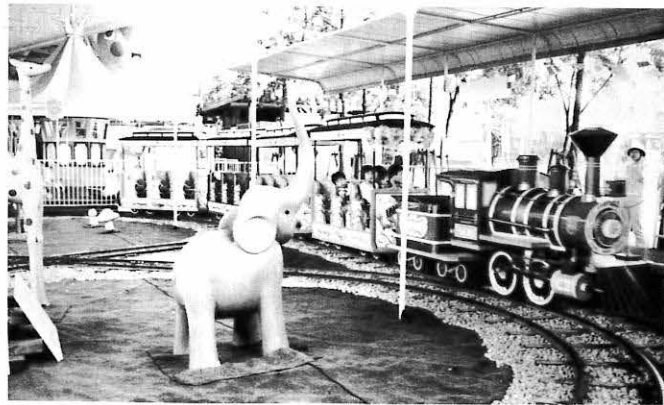
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく



フジカラー SUPER HR

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

絶賛三版

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

第一章 猫の歴史

欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで

第三章 猫の報恩談

蛇を咬んだり、金を運んだりする

第五章 猫の奇話(上)

長命、多産、三毛猫などの形態の奇話

第七章 猫の奇話(下)

マタビを媚薬とする奇妙な習性など

第二章 猫股伝説

老猫化けてさまざまな怪異をなす

第四章 野性猫の存在

裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など

第六章 猫の奇話(中)

長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動

第八章 益獣としての猫

あらゆる角度から猫の生態と効用を探究

発行 動物文学会

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

発売 (株)池田書店

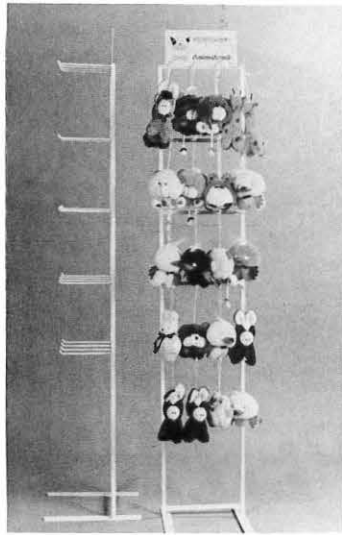
東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425

- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキで
お申し込み下さい。



大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

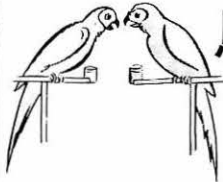


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

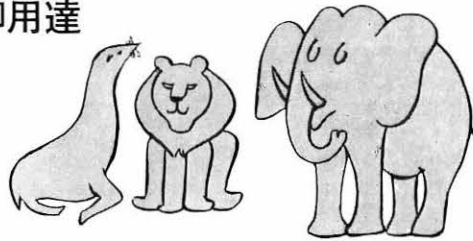
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

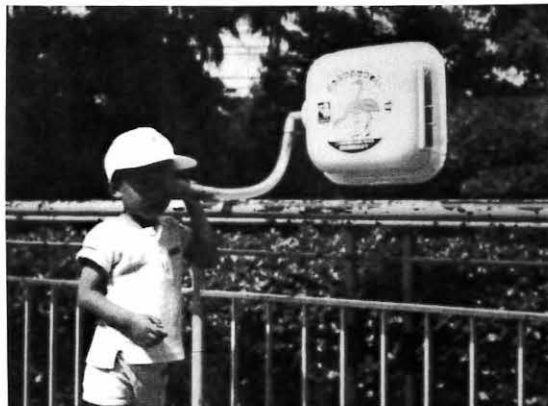


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

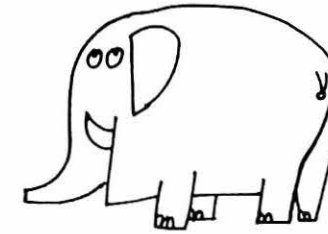
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーツゼリー とってもゼリー



野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——
社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア 商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年4月10日発行 (毎月10日発行) 第25巻 第4号 (通巻284号)

編集/大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗 電話 大阪 (06) 771-0201
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共) 振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/斉田 尚/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
(森本委利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/赤松 建/中垣圭史/大川光雄/山下賢二/土谷正道)